

◇第十回 「舞う」

金

京都・東京



東京公演

令和6年12月7日(土)

矢来能楽堂

開演 午後1時(開場 正午12時)

京都公演

令和6年12月13日(金)

金剛能楽堂

開演 午後7時(開場 午後6時)

◆ご挨拶

2015年11月に産声を上げました「三ノ会」も、今回で10回目を迎えます。京都、東京、大阪と場所を変え開催して参りましたが、様々な時代の変化、環境の変化に翻弄され、本来有るべき姿を見失い、己の為るべき事を探し求め、巡り回りに今に至るところでございます。この三年間を、決して良かった！とは申しませんが、私にとりましては、じつくりと自分を見つめ、先人の教えを咀嚼し、気付きのためには必要な時間であったと考えております。

これまでの狂言人生、10年単位で拘りと探求をしてまいりました。20代には「空間」を、30代は「空気」。40代では「間」を探索し、そして50代は「色と花」を知ることを目指し精進して参りました。還暦を迎えた今、更に求めるものは「氣」でしょうか：

戦後の日本人が失ってしまった生活環境や思想、教育など全ての源にある「氣」。虫や花の声を聞き、風を感じ、川や海の導き教えを受け、山に感謝出来る「氣」を全身で感じ、そして自分の身体で発する。飛鳥、奈良の時代から、いや縄文の時代から日本人が大切にしてきた「氣」を感じ操れる舞台を、目指して参ります。その一歩が今回の「第十会・三ノ会」でございます。

三ノ会 茂山千三郎

狂言小舞「七つになる子」

能楽シテ方の「仕舞」は、一曲の中から見せ場を部分的に取り上げ、独立した舞姿で舞います。それに対し狂言方の「小舞」は、時代の流行語・イロ語を取り入れ、狂言の曲中幕の場面で舞謡うもの、仕舞のパロディ、本狂言の一部を独立させた曲など、幅広い要素が含まれます。「七つになる子」は、その中で独立した小舞の代表曲です。謡出しの部分「七つになる子がいいたげなことを言った殿が欲しと語うた。そもさても和御寮は、誰の子なれば、定家かつらか、離れがたやの、離れがたやの」と意味深く、どうぞ自由に深読みなさってください。

観世・大蔵合舞「海士」

能楽「海士」見せ場「玉ノ段」龍王に奪われた秘宝、面向不肯珠、を取り戻すべく海に潜り、腹を掻き切り、腹の中に玉を隠し、合図とともに綱を引き上げ、自らの命を引き替えて宝珠を取り返す壮絶な場面。前後のドラマはぜひネットで検索を、この曲を前代未聞、シテ方と狂言方が同時に舞台で舞います。本流のシテ方の仕舞とパロディ化した小舞の連、足利子の踏み始めの足が逆だつたり、もちろん型は全然違います。基本は同じはずなんです。舞が本来のシテ方に、狂言方の無謀な挑戦、とも言える舞の競演をご覧ください。

大蔵流「三番三」

能にして能に在らず、と言われる「翁」の中で、狂言方が舞う「三番三」おそろく観阿弥・世阿弥の時代より昔、初見は大治元年(1126年)なのでおよそ900年前から、これは文獻「法華五部九卷書」に残る記録です。私は「口伝」としては飛鳥、奈良の時代に遡ると信じています。ここでは三番を弥助(みよすけ)にあて、仏教的解釈がなされています。まさに今、必要な折りの舞です。この曲に限り「舞う」とは言わず「踏む」呼び大蔵流のみ「三番三」と三を重ねます。意味や物語ではなく、気鋭のお囃子と共に感性でご覧いただきたい曲です。

観世流半能「高砂」

「高砂や、この浦舟に帆を上げて、この浦舟に帆を上げて」婚礼時に謡う有名な謡で始まります。九州阿蘇宮の神官(ワキ)が高砂の浦にやります。そこで木陰を掃き清め老夫婦と出会い、高砂の松と住吉の松とは相生(夫婦)の松、離れても仲睦まじきことを教え、私たちは高砂・住吉の松の文であること乗り、小さな舟に飛び乗り沖の方へ消えて行きます。ここまでは前場「半能」はここからご覧いただきます。神官もまた乗って舟を出すことで例の「高砂や」となります。すると住吉明神が姿を現し、颯爽と神舞を舞い平和な世を寿ぎます。

狂言「神鳴」

都から東の国へ落ちていくヤブ医者の前に、突然天から神鳴様が落ちて来られます。風と雲の間を踏み外して、神鳴はこの医師に治療を頼むと、医師は針治療を施します。怯えまくる神鳴は針治療で完治、天へ駆け上がろうとしますが、ちよつと待って治療代をください。金品を持たない天界人神鳴様は、さあどうする？



東京、高砂シテ 味方玄



京都、高砂シテ 浦田保親



茂山千三郎

◆東京公演／番組

(開演 午後一時)

座談

味方玄
茂山千三郎

狂言小舞
七つになる子

茂山郁馬

観世・大蔵合舞
海士(あま)

観世流仕舞
玉ノ段 馬野正基
大蔵流小舞
海人 茂山千三郎

大蔵流
三番三(さんばそ)

三番三
茂山千三郎
小鼓 松田弘之
大鼓 大倉怜士郎
柿原弘和

観世流半能
高砂(たかさ)

八段之舞
シテ 味方玄
ワキ 安田登
笛 松田弘之
小鼓 大倉怜士郎
大鼓 柿原弘和
太鼓 小寺真佐人

狂言
神鳴(かみなり)

神鳴 茂山千三郎
医師 善竹大二郎
(終演予定 午後三時十五分)

◆京都公演／番組

(開演 午後七時)

座談

味方團
茂山千三郎

狂言小舞
七つになる子

茂山郁馬

観世・大蔵合舞
海士(あま)

観世流仕舞
玉ノ段 味方團
大蔵流小舞
海人 茂山千三郎

大蔵流
三番三(さんばそ)

三番三
茂山千三郎
小鼓 森田保美
大鼓 曾和尚靖
河村大

観世流半能
高砂(たかさ)

八段之舞
シテ 浦田保親
ワキ 原陸
笛 森田保美
小鼓 曾和尚靖
大鼓 河村大
太鼓 前川光範

狂言
神鳴(かみなり)

神鳴 茂山千三郎
医師 茂山忠三郎
(終演予定 午後九時十五分)

◆料金(全席指定)

S席 8,000円 正面及び脇正面
A席 5,000円 脇正面及び中正面

◆東京公演／会場

矢来能楽堂

東京都新宿区矢来町 60
TEL (03) 3268-7311



▲会場MAP

- 地下鉄東西線「神楽坂」駅 矢来口より徒歩2分
- 都営大江戸線「牛込神楽坂」駅 A1出口より徒歩5分
- 駐車場はございません。近隣コインパーキングをご利用下さい。



東京公演・京都公演
いずれもチケットのお申込みは
二次元コードから

◆料金(全席指定)

S席 8,000円 正面及び脇正面前列と二階最前列
A席 5,000円 脇正面及び中正面と二階席

◆京都公演／会場

金剛能楽堂

京都市上京区烏丸通中立売上ル
TEL (075) 441-7222



▲会場MAP

- 市営地下鉄烏丸線「今出川」駅 6番出口より南へ徒歩5分
- 市バス「烏丸今出川」停留所より南へ徒歩5分
- 駐車場はございません。京都御苑の一般有料駐車場をご利用下さい。